



モア通信 No.11

2018年2月20日

●外国人福祉委員とは～

外国にルーツのある高齢者や障害のある方を対象に、関係機関や家族、ご本人からの依頼に応じて、ご自宅を訪問、あるいは電話や来所にて相談をお聞きし、活動を行います。

外国語ができなくてもOK。日本に長年滞在されていて、日本語がわかる方も多くおられます。

ただ、文化的背景がちがうため、日本の制度が分からなかったり、難しい日本語が理解できないため、生活に困ることがあります。

★交通費程度の活動費が支給できます。

★簡単な講座を受けていただき、登録の上、必要時に活動いただきます。

●活動内容

①電話相談

電話でご相談をお聞きします

②傾聴活動

来所や自宅にてゆっくりお話をお聞きします

③その他の支援

既存のサービスや制度ではまかなえない部分の支援～病院や役所などに同行し、手続きなど一緒におこないます

④通訳

医療機関や役所等で、ご本人の意見や思いを通訳し、安心して利用できるようお手伝いします。

★文化的背景がちがっても、自分らしく生きることのできる生活を応援します～

言語より大切なもの

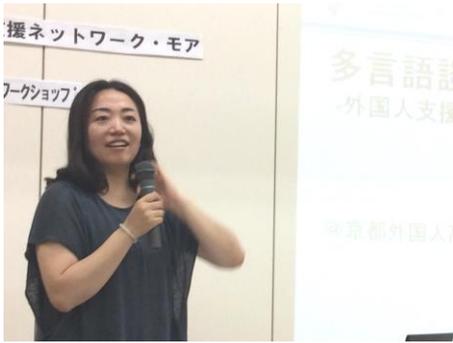
～外国籍高齢者への通訳支援を通して～

南 珣賢 (なむ すんひょん)

外国籍住民の定住化が進み、生活にかかわるあらゆる分野で多言語・多文化への対応が必要になっています。周囲にも外国籍だけに限らず、国籍が日本であっても複雑な背景を持つ住民が増えてきました。

私のモアネットでの活動は主に韓国人高齢者(ハルモニ・おばあちゃん)への通訳支援です。病院や役所、銀行などへの同行、書類の代筆、生活保護ケースワーカー訪問時の通訳などです。私自身は二世なので病院や役所で不便さを感じたことは特にありません。しかし活動を通して外国籍住民の悩みや不安を目の当たりにします。コミュニケーションがうまく取れない状況での診察室は両者(ドクター・患者)にとってストレスフルに違いありません。安心して受診したいからと、在日コリアンのドクターが営む他府県の病院まで通っていたハルモニがいました。また、あるハルモニの通院に初めて同行した時「お医者さんの顔を初めてちゃんと見たよ。あの先生も笑うことがあるんだね」という言葉から、これまでの様子が伺えるような気がしました。ドクターと患者さんの間に外国人福祉委員が入ることで両者はストレスなく意思疎通が図れます。通訳者にはドクターや看護師の言葉や医療的な内容を単に訳すだけではなく、対象者のパーソナリティーや知識、情報量に合わせて伝わる言葉で伝え、何よりドクターや看護師との間を取り持つことが求められます。

文化的背景を外国に持つ人が安心して暮らしていくためにはあらゆる現場での言葉の配慮はとても大事です。しかし多言語化の取り組みが広がれば課題を解決できたことになるのでしょうか。ハルモニたちはそれ以上に、先ず外国人である自分自身を受け入れようとしてくれるのか？ということが一番気がかりなのです。携帯アプリを駆使して関わってくれるドクターや看護師もいます。アプリで言葉が通じることよりも、その行為を通してハルモニたちは自分を受け入れてくれたことを実感し、その時点で心の不安は解消されるのです。言葉が通じなくてもお互いが理解し合おうと努力することで独自のコミュニケーション方法が生まれたりもします。多言語を使いこなすことよりも、知ろうとする気持ち、受け入れる意識を示すこと、これが言葉以上に大事かもしれません。



張善花さん講演 『多言語電話相談の現状と課題』

2017年7月22日、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンにおいて第12回総会が開催されました。総会にあわせて京都YWCA APTの張善花さんに『多言語電話相談の現状と課題ー外国人支援から見える共生社会のありかたー』と題して講演いただきました。

京都YWCAは1923年以来、女性を中心となって一人ひとりを大切に「共に生きる世界」をめざして活動しています。APT(Asian People Together)は1991年9月、日本に生活する外国人が生活に必要な情報や援助を提供し、自ら道を切り開いていくことをサポートするための多言語相談をおこなうボランティアグループとして設立されました。

活動の中心は多言語による電話相談・支援活動です。月曜日の13時から16時、木曜日の15時から18時の週2日実施しています。日本語、英語、フィリピン語、中国語、タイ語での対応が可能です。対面での面接が必要な場合はYWCAに来所いただき、2人で面接相談を実施、ケースによっては同行、自宅を訪問しています。APTの活動は20代から70代までの幅広い年齢のボランティア約20人に支えられています。

張さんの活動の原点に留学生としての経験があります。10年前来日し、役所を訪れた際、日本語ではなかなか通じなかったため、英語で話したところ、職員の対応がいきなり丁寧になりました。流暢に日本語を話せない外国人に対する冷たい対応に驚いたそうです。帰国し、再び来日、張さんは現在京都YWCAのAPT担当職員として働いておられます。

もともとは国際結婚で来日した女性からの相談が多く、結婚、離婚、DV、子育ての悩みなど家庭に関わるものでした。時には離婚をめぐる裁判外紛争解決手続きや調停にもかかわります。離婚後に生活困難を抱えやすい家庭のための生活支援など、家族単位で支援が必要な場合もあります。自宅訪問、親子プログラム、学習支援もおこなっています。近年は、京都だけでなく、滋賀や大阪、中には東京からも相談があるようです。

APTが活動をはじめて25年、時代による変化があります。25年前は個別相談が多くアウトリーチが中心でしたが、現在は行政からの相談も増えました。京都市・府との契約で一歳児検診の際の通訳や保健師からの連絡対応などです。張さんは行政とのやり取りも大切だと言われ、外国人が排除されたという思いをもっていることを行政のワーカーに伝え、地域の中で居場所を見つけることの大切さを丁寧に伝えることを心掛けておられます。

張さんは外国人の生きづらさの背景に、日本社会の変化もあるのではと指摘されました。例えば一時期、韓流ブームがございましたが竹島問題により変質してしまいました。そもそも人間関係のあり方が大切ではないか。張さん自身はとても日本が好き、というわけではなかったようですが、お世話になった人は日本人でした。具体的な人と人とのつながりから関係性を変えていけないかとのこと。設立当時に比べ外国人支援をおこなう団体も増加しています。現実として“共生社会”づくりはむずかしいが、団体同士の横のつながりを作りながら、前向きに取り組んでいきたいと最後に語られました。

～APTの資料より～

●相談から見えてくる課題

① 言葉の壁

- ・情報が得にくい
- ・諸手続きができない
- ・自立できる仕事が得られない
- ・シェルターや母子生活支援施設に受け入れてもらえない
- ・子どもとのコミュニケーションがとれない
- ・学校の勉強についていけない

② 心の壁

- ・特に地方の母子生活支援施設で居づらい。
- ・役所などで心ない言葉を投げかけられる。
- ・家族(夫の両親含)に家族の一員として、特に家計面など信頼してもらえない。
- ・親が外国籍であることを知られたくない。
- ・外国名では友だちに受け入れてもらえない

③ 制度の壁

- ・在留資格を保持するため家庭内で我慢しなくてはならない
- ・離婚による在留資格の喪失

④ 文化の壁

- ・夫婦間での「常識」の違い
- ・日本の学校生活で必要なことがわからない
- ・食文化の違いから生じる問題
- ・妊婦、子育てする母親としての常識の違い

～日頃の訪問活動から～

独り暮らしの 80 代ハラボジ T さんを訪問して 4 年になります。普段ご自分のルーツである韓国のことを話されることはなく、名前も日本名を使われています。昨年 6 月釜山から音楽家の友人が京都に来たとき、自分も一緒に訪ねたいと言うので、事前に T さんに聞いたら「別に来てくれなくてもええ」と言われるのを「まあそう言わずに」と説得して、友人を連れて行きました。

友人の韓国語を私が通訳し「好きな韓国の歌は？」との問いに「韓国の歌は知らん」と言って裕次郎の歌ばかり歌っていた T さんですが、そのうち私の通訳を待たずに友人の韓国語に相槌を打たれているのに気づきました。友人が再び「何か覚えてられる歌は？」と聞くと、「題は知らんけどな…」と言いながら口ずさまれたのを聞き友人が「あ、ナグネスルプムですね」とギターを弾き一緒に歌うと、T さんは背筋をぐっと伸ばし顔を上げてしっかりした声で歌い出されたのです！ その様子が凛々しくて私が「T さん、よく歌わったね」と言うと「わしも朝鮮人や、1 曲くらい歌えますわ」。初めて T さんがご自分のルーツに言及された場面でした。帰り際に友人が「ハラボジ、韓国のお名前を教えてください」と言うと、優しい顔で教えてくださいました。

12 月に再びその友人が来日しチョコッキのプレゼントを持って T さんに再会しました。T さんは近所の店で私たちにコーヒーをおごってください、友人の話に少し韓国語で答えたりもして 40 代の時に墓参に行ったことなど、初めて韓国の故郷の話がされました。釜山の友人の 2 度の訪問で T さんが心を開かれ、何だかそれ以来、愚痴も減ってシャキッと見えます。私自身も「父が生きていたら T さんと同じ年頃かなあ」なんて思うようになりました。(井上朋子・写真左)



モアネットに関わったのは約 10 年前です。父の歴史を聞く機会があって、在日コリアン一世たちのバックボーンを知るうちに、一世たちに対する私の気持ちが強くなっていきました。

その当時エルファに通っておられた女性、日本で生まれた二世の方ですけど、考え方から何から、ほぼ一世でした。おもしろい方で、その当時 80 歳前後だったと思うけれど、アパートで一人暮らしをしていて、訪ねて行っては話を聞きました。若いころの写真を見せてもらい、旦那さんが若くで亡くなって、その後の苦労話とか。日本語半分、朝鮮語半分で、よく笑う面白い方でした。いろんな病気を持っておられたので、近くの医院に連れて行ってほしいとモアからお願いがあってお世話しました。

アパートのドアをたたいて、歩くのに時間がかかって、もういいひんのかと思ってたら出てこられる。月に 2 回くらい病院に行き、待ち時間の間にいろいろ話しました。帰りにスーパーに入って買い物のお手伝いもしました。何年か前に亡くなられたと聞きましたが、その方が一番印象に残っています。

もう一人、女性で身障者の方がおられました。障害のランクを落とされた時の気持ちや、ヘルパーに対しての思いなど、感情の起伏が激しくて大変でした。それでも定期的に訪問して話を聞いていました。そこで

初めてスープを作りました。何を作りましょうか？と聞いていわしのスープを作ったと思います。ヤンニョムジャンを入れるとおいしいので、材料を買って年に 1 回くらい作っていました。その方とは、3 年くらいの関わりでしたが、その後も別の男性高齢者の方に毎月スープを作って、一緒に食べながら話をしています。

単に高齢者や障害者というのではなくて、この人たちがどういう生き方をしてきたかという、過去をしっかり見て、現在、未来を見ていく。その人たちが、がんばってきてよかったと思えるようなお世話をする、それを次の世代につなぐ、これが私の信条です。

モアの設立当初の意図として、制度の枠外におられる人を探して少しでも手を差し伸べようということでした。これからも独居の方を中心に声をかけて、話を聞きながら活動していきたいと思います。(李宗一 / リじょんいる)



外国人福祉委員養成講座 (2017年3月18日)

京都で活動されている寄り添いホットラインの藤喬さんの紹介で、生田武志さん(野宿者ネットワーク・野宿者問題の授業・フリーターズフリー)の講演をいただきました。

生田さんが「野宿者」と出会ったきっかけは大学時代。卒業後、フリーターをしながら「野宿者」と関わり、幅広いネットワークを作って生活支援、夜回り(声かけをして安否確認し、寒さで病気になっていないか、襲撃に会っていないかの見回りをする)、生活保護受給、医療受診などの情報提供と手続き支援をしてこられました。

その活動の中で、「野宿者」襲撃、とりわけ未成年、子どもたちが襲撃の主体となり、殺人事件まで犯してしまう事態に遭遇した生田さんは、学校教育が重要と、阪神間の教育委員会に掛け合い、「野宿者問題の授業」を自ら作り、各地の学校で授業を行ってこられました。教室だけでなく、子どもたちが出かけて野宿者の話を聞き、思いを聞き、その立場で考えていく体験学習で、子どもの視線が変わっていったというお話はとても印象的でした。

「野宿者」になるのは、実は誰でもその可能性があり、病気やけがで働けなくなり、生活費が無くなり、日雇いの生活を続け、それさえもできなくなる、社会のセーフティネット、制度の隙間があることを知りました。南区でも、NPO 法人京都らし応援ネットワークの24時間電話相談活動、夜回りの会等の活動があります。モアもネットワークを活用して、支援ネットの網の目をさらに細かく強固にして、誰もが孤立することのないよう活動を広げていきたいと思っています。



毎月のお茶会

毎月第3(週が時々変わります)火曜日の15時から福祉委員と事務局で活動についての報告や勉強会をしています。

高齢者の総合事業(介護保険要支援の方への新たな介護施策)、認知症カフェ、刑務所からの出所者支援、障がい者の病院から地域移行支援、居場所づくりについてなど、地域に住むさまざまな立場の人に対して、公的な制度だけでなく、実情に即した民間による地道な取り組みを学び、意見交換してきました。

今ある制度や活動を知り、福祉委員の役割や活動の在り方を考えていきたいと思えます。



～おしらせ～ 2017年度 外国人福祉委員養成講座

高齢者の孤立に向き合う

～私にできること、あなたにできること～

新井康友さん

(佛教大学社会福祉学部准教授)

2018年3月17日(土)

14:00～16:00

京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

地域で孤立している人たちの抱えておられる課題を知り、誰もが孤立せずに自分らしく生きることのできる地域づくりを考えます。

ご興味のある方は、事務局(681-2721)までお気軽にお問合せください～。

◆ 福祉委員募集中 ◆

2016年度の活動(2016年4月～2017年3月)

支援内容内訳

1. 外国人福祉委員派遣事業

在日外国人高齢者・障害者の方への生活支援活動内容は、電話相談による情報提供の他、関係機関からの依頼で自宅を訪問し、安否確認・簡単な日本語での話し相手・傾聴、生き甲斐支援等でした。また、定期訪問が必要な孤立しがちな方については、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら見守りました。そのほか、日本語が話せない方には、医療・福祉・住宅関係者との通訳や、母国語で傾聴しました。2016年度の活動件数は、27人の福祉委員が81人に対しての975件でした。

2. 外国人福祉委員の研修

7月の総会では、牧田幸文氏に、中国帰国者(中国残留孤児)1世代たちの生活状況、2世を中心とした支援活動「夕陽紅(シーヤンホン)の会」による、文化の共有や中国語での支援の状況についてお話いただきました。また、3月には野宿者ネットワークの生田武志さんに、野宿になる背景や生活回復の困難さ、社会からの孤立や襲撃の実態についてお話いただきました。外国にルーツがある人たちの支援についても、ともに生きるためのネットワークが必要であることを確認しました。

外国人福祉委員のお茶会は毎月1回行い、活動報告・情報交換・医療・福祉に関する学習をし、意見交換を行いました。

3. 外国人福祉委員活動の整備・充実化に向けて

3月に第10号通信を発行しました。
運営委員会は随時行い、大学研究者も含め、活動の充実化に向けて話し合いました。
また長寿福祉課と連絡を取り、相談や情報交換をしました。

4. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

総会や養成講座以外に、関係機関にモアの活動について紹介しました。

5. 他の外国人支援団体との連携

京都市国際交流協会の「多文化支援ネット」や「ハナネット」に事務局メンバーが参加し、事業協力、外国籍市民や在日コリアン支援グループと情報交換を行いました。
2月には、多文化支援ネットで「グローバルセッション」を企画し、外国につながる人たちの居場所について、学習と意見交換を行いました。

★きょうと多文化支援ネットワークホームページ

<http://www.kcif.or.jp/HP/jigyo/katsudo/jp/shien-net/>

福祉サービス紹介・指導	介護保険	受付相談	1
		サービス利用・内容	2
		その他	0
	生活保護		2
	高齢者福祉		0
	障害者福祉		1
	その他の保健福祉サービス		0
	小計		6
相談内容	安否確認		980
	生活相談		792
	家族関係相談		319
	人間関係相談		140
	生きがい相談(趣味活動)		185
	こころの相談		143
	経済面の相談		18
	言語・コミュニケーションの問題		28
	民族文化・歴史等の問題		65
	健康(病気・体調)相談		649
	栄養食事関連相談		193
	その他		41
	小計		3553
関係機関との連絡調整	区役所	福祉事務所	49
		市民窓口等	3
		その他	1
	自治会・地域団体		1
	民生委員/老人福祉員		1
	社会福祉協議会		0
	ケアマネジャー、ヘルパー等		87
	その他(障害福祉・ライフライン・業者・家族・近隣住民等)		152
	小計		294
直接対応	緊急対応	病院・診療所への連絡	0
		ケアマネなど関係者連絡	0
		警察・消防車出動要請	0
	病院同行・入退院 手配など		21
	医療通訳		9
	家事援助		24
	身体介護		12
	その他(外出同行・余暇支援等)		95
小計		87	
合計		4014	

京都モアネット役員

2016年度収支決算書
(2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位:円)

【顧問】

小澤 亘(立命館大学教授)
 田中 宏(一橋大学名誉教授)
 仲尾 宏(京都造形芸術大学客員教授)
 水野直樹(立命館大学文学部客員教授)
 河 相泰(在日本大韓国民団京都府地方本部団長)
 金 尚一(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員長)
 鄭 禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ顧問)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学短期大学部教授)
 紫 松枝(在日本朝鮮人総聯合会山科支部委員長)
 金 周萬(韓国民団京都府本部福祉事業推進委員会委員長)
 朴 錫勇(札の辻診療所所長、
 NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事長)

【運営委員】

加藤博史(兼任)
 紫 松枝(兼任)
 金 周萬(兼任)
 朴 錫勇(兼任)
 岡野英一(龍谷大学教授)
 南 珣賢(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)
 宋 基和(大韓国民団京都府地方本部南支部副支団長)
 石川久仁子(大阪人間科学大学准教授)
 金 洋子(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ監事)
 金 秀煥(朝鮮総聯南山城支部委員長)
 村木美都子(NPO法人東九条まちづくりサポートセンター
 まめもやし事務局長)

【会計】

金 洋子(兼任)

【会計監査】

叶 信治(希望の家カトリック保育園園長)

【事務局長】

鄭 明愛(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

科目	金額	
1. 収入の部		
京都市助成金		1,120,000
賛助寄付金	692,890	
会費	25,000	
団体会費	5,000	722,890
預金利息	24	
雑収入	20	44
当期収入合計 (A)		1,842,934
2. 支出の部		
1)福祉委員派遣事業に係る費用		
・報酬費	539,500	
・上記に関する交通費	48,520	
・連絡調整費	206,250	
・事務費	13,688	
・通信費	35,624	
・賃借料	600,000	
・什器備品	0	
・雑費	4,428	1,448,010
2)福祉委員養成講座		
・講師謝礼	15,000	
・連絡調整費	4,500	
・雑費	8,976	28,476
3)啓発・ネットワーク事業		
・活動費	48,294	
・講師謝礼	10,000	
・通信費	23,334	
・連絡調整費	8,600	
・交通費	3,600	
・雑費	2,494	96,322
当期支出合計 (B)		1,572,808
当期収支差額 (A)-(B)		270,126

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町12
 京都コリアン生活センターエルファ内
 京都外国人高齢者・障がい者生活支援
 ネットワーク「モア」(京都モアネット)
 TEL 075-681-2721/FAX 693-2555
 Email kyotomorenet@yahoo.co.jp
 郵便振替口座:00990-4-314429
 加入者名:京都外国人高齢者障害者
 生活支援ネットモア
 ♡支援カンパよろしくお願ひします♡

編集後記
 ▼通信十一号がようやくできました！
 みなさまにはいつも応援いただき感謝です。▼日本に長年住んでおられても日本語の理解が困難なコリアンがおられます。私は、朝鮮語を話すことができませんが、相手の話をゆっくり聞き、簡単な日本語で丁寧に話しかけることで、相手の方が多少朝鮮語を交えて話されても何となくわかることがあります。大事なことは、聞くことと姿勢、知ろうとする気持ちではないでしょうか。▼三月十七日(土)に外国人福祉委員養成講座を行います。今回は「社会的孤立」がテーマです。あなたの生活圏にちよつと心配な外国籍の方はおられますか？誰かとつながっている、話せる人がいることの大切さを考えます。▼興味のある方、ぜひご参加ください(み)。